

棚田に吹く風

2022
春
Spring
季刊



2 特集

ふるさと納税サイト
「さとふる」で棚田を応援しよう!

6 棚田・里山からのだより

棚田を舞台に交流の輪が
地域活性化の源泉に!
滋賀県高島市鶴川の棚田

8 フォトエッセイ

原風景よ永遠に

9 棚田BAR～棚田里山酒めぐり～

生きもの屋の里山考

10 棚田博士は今日も行く 特別寄稿

「西日本は石積み、東日本は土坡の
棚田が多いのは何故か」

12 読者のひろば

14 棚田俳壇
スタッフのつぶやき

15 Project Report

特集／特別寄稿



ふるさと納税サイト

「さとふる」で

棚田を応援しよう！

今年1月、さとふると納税サイトの大手「さとふる」に、なんと特定
の棚田を応援できる画期的な企画が立ち上がりました。

公開にあたり、当会にも頻繁に情報収集に来所し、会員にもなって
いただいた担当者、渡邊葉子さんに「さとふる」の棚田応援特集の概
要を寄稿いただきました。

www.satofull.jp/static/special/tanada.php



「さとふる」で 棚田を応援しよう!



棚田特集では、棚田米や棚田米を使った日本酒などのお礼品の他、現地で実際に農業体験ができるお礼品なども掲載している。

棚田を体験できるお礼品

<p>山清水米みんなの棚田 小口コース 10KG</p> <p>2022年度「まつだい棚田パンク」 総額32コース (...)</p> <p>【販売期間】 寄付金額 10,000円</p> <p>【送料】 寄付金額 41,000円</p> <p>★☆☆☆☆ (5件)</p>	<p>【棚田オーナー】山清水米みんなの棚田 小口コース</p> <p>2022年度「まつだい棚田パンク」 総額10a/1年間</p> <p>【販売期間】 寄付金額 74,000円</p> <p>☆☆☆☆☆ (0件)</p>	<p>2022年度「まつだい棚田パンク」 総額小口コース (...)</p> <p>【販売期間】 寄付金額 44,000円</p> <p>☆☆☆☆☆ (0件)</p>
---	---	---

棚田を体験できるお礼品をもっと見る

ふるさと納税を活用して 全国の棚田を応援

ふるさと納税サイト「さとふる」では、1月19日から「ふるさと納税で応援/棚田特集」を公開しています。今回はその背景と特集内容について、ご紹介させていただきます。

まず、ふるさと納税とは応援したい自治体に寄付ができる制度です。寄付額に応じて税金の還付・控除が受けられるため、実質負担額は2000円となります。それに加えて寄付のお礼として、自治体から特産品をもらえることもあり、ふるさと納税業界全体として寄付額は増加傾向にあります。

総務省の発表によると、2020年度のふるさと納税寄付額は約6725億円、寄付件数は約3490万件と過去最高の寄付が集まったという結果となっており、2021年度も引き続き増加していると考えられます。

ふるさと納税と棚田

さとふるでは、ふるさと納税を通じたさまざまな取り組みにより、地域の生産者や自治体に寄り添いながら、地域活性化を応援しています。今回、以下の観点から棚田に着目し、特集を公開しました。

まず、美しい景観を誇る棚田は、日本の原風景であり、そこで生産されるお米は、美味しいだけでなく、希少性・付加価値が高い特産品であるということです。ふるさと納税を利用する寄付者は「普段購入しないようなお礼品を選びたい」というニーズを持っており、「その地域ならではのお礼品」や、「美味しい、こだわりのあるお礼品」を求める方が多くいらっしゃいます。

また、棚田米は収穫量が少ないため、一般的な市場には流通しにくい一方で、ふるさと納税は、特産品を全国の寄付者に直接お届けできる市場を形成しており、少量でも出荷することができず。また、ふるさと納税において、お米は肉や魚介類、フルーツと並び、人気の高いお礼品ジャンルです。

そして、棚田では農作業を通じて、地域住民と都市住民の交流を生み出している事例もあり、地域活性化の核として注目されていますが、ふるさと納税は寄付者が地域に興味を持つきっかけとなるため、地域と関わる最初の入り口として、活用いただけると考えています。

これらのことから、棚田とふるさと納税の相性の良さに着目したさとふるは、農林水産省の「つなぐ棚田遺産オフィシャルサポーター」に認定されており、オフィシャルサポーターの取り組みとして「ふるさと納税で応援/棚田特集」を公開しました。

お礼品の例

○貝ノ川の棚田／高知県津野町(右)
【無洗米】石垣棚田で作る『貝の川
の棚田米』5kg
寄付金額：9,000円
○岩首昇竜棚田／新潟県佐渡市(左)
岩首昇竜棚田応援セット【棚田を味
わう】お酒/その他
寄付金額：30,000円



全国の魅力的な棚田を紹介

全国各地の農山村で棚田が荒廃の危機に直面しているという地域の課題、平地にある水田と比べて「労力は2倍、収量は半分」といわれる状況の中でも棚田を守り続けている生産者の方々。その想いに寄り添い、ふるさと納税を活用して寄付者の方に棚田の魅力を伝え、「応援したいふるさとの棚田」を見つけていただくことで、棚田を次の世代につないでいく支援をしていきたいと考えています。

日本の原風景・棚田。ふるさと納税で気軽に棚田の応援ができることを、全国の寄付者の方にお伝えします。

棚田特集では、棚田の景観美を伝える写真や動画、棚田の特徴、生産者の想いとともに、棚田ごとにお礼品を紹介しています。第一弾として掲載しているのは全国11カ所の棚田です。

今回の棚田特集の立ち上げにあたり、事業者の皆さまから、棚田を未来に残していくためには地域外からの応援が必要となっていることを伺いました。棚田関連の特産品を選ぶことや、オーナーやサポーターとして実際に棚田を訪れることが応援につながるというお話を伺い、ふるさと納税でそのきっかけづくりをお手伝いしたいと考えました。

本特集では棚田米や日本酒のほか、棚田のオーナー、サポーターなど、体験型のお礼品も掲載して

います。

例えば、新潟県十日町市の「まつだい棚田バンク」5平方メートル分の棚田のオーナーになれるお礼品です。ふるさと納税限定で、小さい面積のコースを設定しており、地域と関わるきっかけにしたいという思いで掲載いただきました。

また、本特集に合わせて新たなお礼品を提案させていただき登録が実現したものもあり、岡山県美作市の「上山棚田の稲株主制度」は、寄付をすると稲株を100株保有でき、棚田米と冬野菜が届くほか、農作業イベントへの参加権、「稲株主優待券」という名前の地域で使える割引券などが届くという内容になっています。

今回の特集を通じて、ふるさと納税が、棚田地域を実際に訪れたり、自分のふるさとと感じたりするきっかけになればと考えています。

今後、さとふるでは、棚田特集に掲載する棚田やお礼品ラインナップの拡充を進めるとともに、地域のニーズを調査し新しい企画の検討も進めていきたいと考えています。



「さとふる」で 棚田を応援しよう!



土谷棚田／長崎県松浦市

さとふる棚田特集に掲載している棚田一覧（ふるさと納税お礼品の一例）

- ❖ 越後松代棚田群 新潟県十日町市 「まつだい棚田バンク」里親ミニコース(寄付金額10,000円)
- ❖ 池谷・入山の棚田 新潟県十日町市 【棚田オーナー】山清水米みんなの棚田 小口コース(寄付金額41,000円)
- ❖ 越後ファームの棚田 新潟県阿賀町 新潟県奥阿賀産こしひかり特別栽培米(雪蔵今摺り米)10kg(寄付金額16,000円)
- ❖ 岩首昇竜棚田 新潟県佐渡市 岩首昇竜棚田応援セット【棚田を味わう】お酒/その他(寄付金額30,000円)
- ❖ 佐藤農場の棚田 新潟県小千谷市 棚田のオーナー制度(10a/1年間) (寄付金額74,000円)
- ❖ 外之沢の棚田 新潟県小千谷市 【令和3年産】魚沼産コシヒカリ米「博」 3kg(寄付金額10,000円)
- ❖ 平林の棚田 山梨県富士川町 富士川町産 棚田米10kg(寄付金額20,000円)
- ❖ 毛原の棚田 京都府福知山市 毛原の棚田サポーター制度 お気持ちコース(寄付金額9,000円)
- ❖ 上山棚田 岡山県美作市 2022年度「上山棚田の稲株主制度(ベージュ)【1口100株】」(寄付金額25,000円)
- ❖ 貝ノ川の棚田 高知県津野町 【無洗米】石垣棚田で作る『貝の川の棚田米』5kg(寄付金額9,000円)
- ❖ 土谷棚田 長崎県松浦市 日本棚田百選 土谷棚田米10kg(寄付金額14,000円)

ふるさと納税だけでなく
”地域の未来づくりと一緒に”

さとふるは、寄付者には簡単に操作できる利便性の高いサイトを、自治体・事業者の皆さまには、お礼品の登録や配送手配、問い合わせ対応などのふるさと納税業務を代行するなど、ふるさと納税に参加しやすい環境の提供し、当社のサービスを活用していただくことで、地域活性化を推進していきたいと考えています。さとふるが自治体・事業者のふるさと納税業務の負担を軽減することで、地域の魅力を磨く時間を創出し、地域の魅力が高まり、地域に興味を持つ人、応援する人が増える。そうして地域産業が活性化され、地域がより輝く。このように、地域が持続的に成長する仕組み、地域がより輝く仕組みを創り出していくことが、さとふるの役割だと考えています。

さとふるは、今後も、さまざまな取り組みを通じて地域の生産者や自治体に寄り添いながら、地域活性化を推進します。

(文・株式会社さとふる 経営戦略室戦略推進グループ 渡邊葉子)



さとふる

株式会社さとふるは、ふるさと納税を通して地域活性化を推進しています。地域の方には、地域の本質的な発展のために時間や労力を使ってほしいと考え、ふるさと納税サイト「さとふる」の運営だけでなく、自治体やふるさと納税お礼品事業者の業務を代行・サポートしています。

棚田・里山
からの
たより



棚田を舞台に交流の輪が 地域活性化の源泉に！



1：鵜川の棚田 春／2・3：シシ垣／4：棚田オーナー稲刈り

鵜川の棚田について

鵜川の棚田は、滋賀県の西部にある高島市の最南端に位置し、約500枚の棚田が比良山系の山々に沿って広がり、棚田からは日本一大きな琵琶湖のパノラマが堪能できます。さらに棚田の中ほどを電車が走る光景を写真に収めようと多くの鉄道ファンが訪れています。

また、棚田と里山の境界を歩いてみると、1メートルほどの高さがある野面積みの石垣が延々と続いています。この正体は、秋に稲を食い散らかす獣害から棚田を守るシシ垣(猪鹿垣)で、古文書によると築造年代は江戸時代後期(1700年～1800年代)に造られたと推測されています。現在は、山際に沿って設置されている獣害防止柵が獣害被害防止の役割を担っていますが、この石垣が設置された江戸時代より棚田を大切に守っていくという先人たちの熱い思いが伝わってきます。

滋賀県高島市鵜川の棚田

棚田を守るための取り組み

近年、鵜川の棚田では、高齢化により棚田の維持が難しくなり耕作放棄地が年々増えてきたことから、地元住民は危機感を抱き棚田保全に向けた取り組みを始めました。しかし、棚田を守るうえにも地元住民だけでは限界があり、そこで目を付けたのは農業や棚田に関心がある都市住民の方々です。平成28年に地元農家の有志により「鵜川棚田保存会」を立ち上げ、棚田オーナー制度に取り組みました。棚田から見る絶景の琵琶湖に魅せられて毎年、多くの棚田オーナーが農作業に汗を流し収穫の喜びを味わっています。

また、平成30年からは風光明媚な景観と棚田特有の日当たりの良さ、水はけの良さが果樹を栽培する条件に適していることから、耕作放棄地に果樹の栽培を始めました。将来的には、都市住民を対象にした観光農園や果樹オーナー制度の導入を目指

しています。

企業との協働による地域活性化

鵜川の棚田では、新たな取り組みとして令和2年度から県の事業（しがのふるさと支え合いプロジェクト）を活用して、企業と地元の協働による棚田の活性化に取り組んでいます。今まで地元だけでは思いがなかつた当たり前のことが企業と協働することで、新たな発想が生まれ新たな取り組みへと繋がっています。

その一つが棚田米の販路拡大です。今までは、地元の直売所で販売



1・2: 棚田オーナー稲刈り / 3: 住民、大学生でおにぎり準備 / 4: 大学生の販売補助 (左から学生、先生、学生)

していましたが、おにぎりにして販売してはとの意見がまとまり、直売所の加工所を利用しドライアスル方式での販売としました。県内の大学の学生が販売を手伝ってくれるなど企業や大学との連携した取り組みが地元住民のやる気を高めていることは確かであり、継続した取り組みに繋がっていきたいと思います。

取組の成果と今後の期待

棚田の活性化を目指した取り組みは、「鵜川棚田保存会」を中心に試行錯誤しながらも着実に地域住民に理解と関心を高めていることは確かであり、今後も活動を継続し

ていくことが必要であります。

また、地域住民がいくら頑張っても新たな発想やアイデアは生まれにくく、企業や大学と連携することで地域の魅力を再発見したり、地域の資源を再認識することが多くあります。

鵜川地域では、棚田オーナー制度や果樹の栽培など、まだ始まったばかりですが、今後も「鵜川棚田保存会」が存続し継続した取り組みを進めていくことが、地域活性化の原動力になると考えています。

(鵜川棚田保存会 会長 山田善嗣)

棚田へのアクセス

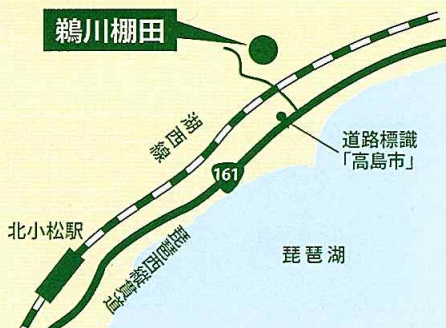
【公共交通】 JR湖西線北小松駅下車。駅前からタクシー利用で約10分

【自動車】 京都方面からは、琵琶湖西縦貫道(国道161号)を北上し道路標識「高島市」を過ぎたら直ぐに左折し農道に入ると鵜川の棚田が広がっている。京都市街中心部から車で約50分

お問い合わせ

<http://www.ukama-to.com/index.html>
Tel. 0740-36-1443
(鵜川棚田保存会/うかわファームマート)

滋賀県・高島市



鵜川の棚田 秋



鯉のほりも泳ぐ躍動感あふれる田植え／愛知県新城市・四谷千枚田

原風景よ 永遠に

写真・文
伊藤 憲男

愛知県の棚田といえは奥三河の新城市にある四谷千枚田を思い浮かべます。鞍掛山の標高220メートルから420メートル付近までの標高差200メートル余りの山麓に石積みみの棚田が広がっており、雄大な景色を見ることが出来ます。明治13年に起きた長雨と雨台風による山崩れで棚田も崩れ甚大な被害を受けましたが、5年程の歳月をかけて棚田は蘇りました。その後は圃場整備された様子もなく、今も大小さまざまな田んぼが美しい幾何学模様を見せています。棚田に水が入るのは4月中旬頃から、5月のゴールデンウィーク前後には田植えの最盛期を迎えますので、この頃が撮影にはお勧めです。また雨上がりの早朝には霧が湧くことも多いので、幻想的な棚田の光景も期待できそうです。棚田への入り口近くの国道257号線沿いには「道の駅したら」、その隣にはコンビニも出来て夜間や早朝の撮影も安心して出来るようになりました。奥三河は不世出の写真家前田真三氏も愛した懐かしい原風景の聖地であり、様々な風景が待っています。ぜひお越しください。

石積みみの傍らには、石仏も安置されたレンゲ田



伊藤 憲男 いろいろのりお

1951年愛知県丹羽郡大口町に生まれる。23歳の時初めてアサヒペンタックスSPFを購入し白黒写真から始め、デジタル写真に至る。1998年5月4日に初めて坂折棚田を訪れ、縁あってその後撮影などで23年間通い続ける。第9回雷フォトコンテストでグランプリ受賞。Nature's Best Photography Asiaフォトコンテストに入選、アメリカワシントン・スミソニアン自然史博物館で開催された表彰式に参加。
出版写真集：『坂折棚田』『坂折棚田物語』『我ふる里に帰る』
(発行元：いずれも岐阜新聞社)



日本初の棚田ビール「坂元棚田エール」日南麦酒

宮崎県日南市発のカラフルなクラフトビールたちの中、緑のラベルに注目すると、その名は「坂元棚田エール」! 今回はブルワリーの日南麦酒・橋本彰史さんを訪ね、日本初(※)となる棚田ビールをご紹介します。(※ 棚田ネットワーク調べ&日南麦酒調べ)

日南麦酒のルーツにもなるベルギービールでは、様々な副原料を加えて味を楽しみます。橋本さんが新しいセゾンビールを作ろうと、ここ日南の地元らしい副原料を探していたところ、出会ったのが棚田米でした。坂元棚田は馬耕を前提とした端正な石垣が全国でも類を見ない美しさで、地域の象徴的な場所です。坂元棚田保存会の古澤家光会長とも意気投合し、坂元棚田産のヒノヒカリをブルワリーに持ち込んで、坂元棚田エールが誕生しました。

味のほうは、軽く冷やすと爽やかな苦味が際立ちます。常温では、ごはんのようなまろやかな甘みも出てきて棚田米のビールらしい味わい。日南麦酒銘柄で多く使われる副原料の緑茶葉も、爽やかさを際立たせます。橋本さんは、ここ日南の地元の人にこそ親しんでほしいクラフトビールとして坂元棚田エールを作ったとのこと。農作業の合間に飲むのがセゾンビールだともいいます(笑)。私たち棚田ファンとしては、ここ宮崎を訪れたら必ず飲みたいビールとして、ぜひご記憶ください。ネットショップもぜひ!

◎ネットショップ <https://nichinanbeer.theshop.jp/>



坂元棚田エール
330ml ¥550(税込)
坂元棚田のお米を副原料に使いセゾンビールに仕上げました。他にも地元になんだ楽しいラインアップ多数あり。

Tanada BAR

生きものの屋の 里山考

文 写真 (株) 環境指標生物 釣谷洋輔

春の声

夜の雲に ひびきて小田の 蛙かな
(飯田蛇笏)

春になると水田のまわりでカエルたちが鳴き始めます。皆さんは身近なカエルの声、何種類聞き分けられるでしょうか?

日本に生息するカエルの半分ほどは

水田とその周辺を生活の場としており、生きるためには山林と水田と河川といった、いわゆる棚田などの里山環境が必要になります。冬眠から醒め、水田にやってくるカエルたちの目的はおもに繁殖で、産卵には水田のような浅い止水域(水たまり)が最適なのです。一部のカエル(シユレーゲルアオガエルなど)は畦に潜り込み土中に卵を産卵することから、農家さんに嫌われる事もありますが、イノシシやモグラのように畦を壊してしまうほどではありません。むしろカエルたちは水田の優秀な害虫駆除業者であり、水田管理にはメリットの方が大きいと言えるでしょう。

しかし、近年では水田自体の減少、圃場整備や農薬などの影響により、カエルたちの生息環境が脅かされています。レイチエル・カーソンの『沈黙の春』ではアメリカの農耕地に殺虫剤(DDT)が散布されたことで生態系が崩れ、鳥たちのさえずりが聞こえなくなつた春について記していますが、日本に当てはめれば、春先の水田でカエルの鳴き声が聞こえなくなるといふことは、私たち自身も住みにくくなるという警告だと思えます。生きものの屋としては、いつまでも夜の棚田にカエルたちの声が響くことを願います。



月夜に梢で鳴く蛙



上：新潟県十日町市星峠の棚田
下：千葉県鴨川市大山千枚田

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

特別寄稿

西日本は石積み、
東日本は土坡の棚田が多いのは何故か



なかしま みわひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO
法人棚田ネットワーク代表。全国棚田
(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミット
開催地選定委員会委員長。1933年
宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地
歴科卒。2004年まで早稲田大学教育
学部教授。著書に『日本の棚田—保全へ
の取組み』『百選の棚田を歩く』『続・百
選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以
上、古今書院)。現在、百選外の棚田に
ついての執筆準備のため全国行脚中。

タイトルの答を得るには、まず日本の棚田がどのように分布しているかという説明から始めなければならぬ。その分布については筆者が農水省の調査による1988年の資料を用いて作成した全国図が唯一のものとして知られている。これによると、我が国を石川県・岐阜県・愛知県の辺りを境にして二分すれば、全国の棚田面積22・3万畝のうち3分の2が西日本、3分の1が東日本にある。

また、棚田の法面構造である石積みと土坡の分布についても、ほぼこの線を境にして西日本に石積み、東日本に土坡の棚田が多くみられる。さらに、この線を境にして中島を西日本ではナカシマ、東日本ではナカジマと呼ぶことが多いため、私は石積みの棚田をナカシマ型、土坡の棚田をナカジマ型と呼んでいる。

ところで、問題の答えは一言でいえば地形や地質構造の違いによるものである。たとえば、日本における棚田の三大卓越地の一つである東日本の新潟県頸城地方(上越市・柏崎市・十日町市の一部によって占められる地域)は、大地溝帯の西縁静岡〜糸魚川線の東部に当たり、日本列島が二分された時、海になった部分でその後の堆積作用や火山活動により陸地化したところである。

上：長崎県波佐見町鬼木棚田／下右・左：愛媛県西条市千町棚田



■全国棚田分布図



堆積部分は当然地質的には新しく、新生代第三紀に形成されたもので第三紀丘陵とよばれている。丘陵地は固結度の低い砂岩・泥岩・頁岩・凝結岩などからなり、風化し易いため、厚い土壌層が形成され、そこに造成される棚田は当然法面が土坡の棚田になる。

これに対し西日本の中国地方にひろがる吉備高原は中生代以前の古い岩石からなる準平原であり、主として花崗岩からなっている。また、九州地方の九重・阿蘇山麓は火山地域であり、当然火山の溶岩によって占められる。このため、両者ともに法面は石積み棚田である。

東日本では、頸城地方以外でも、長野県・新潟県・富山県・石川県の能登半島にかけては第三紀丘陵が分布する地域であるとともに日本を代表する地こり地域。ことに、頸城地方は日本一の地こり地であり、同時に豪雪地域でもある。このため夏近くまで谷に雪が残り、国土地理院発行25000分の1の地形図で水田部分を着色してみると、丘陵地の全体が塗りつぶされ、全域を占めるかの如く面的な分布を示し圧倒される。これらがすべて土坡の棚田であるため、東日本は土坡の棚田という印象を強くする一因になっている。

さらに東日本では栃木県那須烏山市や茂木町、千葉県北部の丘陵地域でみられるような谷地田型棚田が多いことも土坡の棚田が卓越する一因になっている。谷地田は基本的には丘陵間の谷間に拓かれた水田であり、土砂が堆積した部分であるため、そこに拓かれる棚田は土坡の棚田になる。

一方、西日本では吉備高原や石見高原を含む中国山地全体が主として花崗岩からなっている。このことは、花崗岩が風化してできたマサ土から採取した砂鉄を用いたタタラによる製鉄が、中国地方で広く行われた事実からも明らかである。また、中央構造線に沿う棚田の多い紀伊山地から四国山地にかけては秩父古生層や片岩地域であるため、造成される棚田は石積みになる。これらのなかで、愛媛県西条市の千町棚田でみたスレート状の緑色片岩を縦にして積んだ石積みが見事であったことを記憶している。

棚田との出会い



静岡県松崎町石部棚田での畦付け、畦塗り

私が棚田を初めて訪れたのは10年ほど前のことです。棚田ネットワークの久野さんより声をかけていただき、石部棚田(静岡県賀茂郡松崎町)で田植えを体験しました。

海に向かってなだらかに広がる棚田の風景を目にしたときは唖然とするばかりでした。

また田植えや稲刈りの際は棚田保存会の皆様に作業を教えてもらい、少しだけ会話を交わします。表情や声、作業中の所作から力強さと温かさが(時折セクシーさも)感じられ、そのわずかな交流が何よりの楽しみであります。

こうして石部棚田が病みつきになるのは、豊かで厳しい自然と共にある西伊豆の寛大さに癒を流してもらえそうな気が、いつときでも感じられるからだろうと思います。

さて、全国に数ある棚田がいかにおもしろく、素敵であるかは「棚田に吹く風」でも度々紹介されている通りですが、私が魅了されたもう一つの棚田、岩首昇竜棚田(新潟県佐渡市)についても触れます。

横浜市港北区 増井 知佳



新潟県佐渡市岩首昇竜棚田にて

岩首の棚田は海沿いから山へと広がり、ときめく絶景である点は石部とも共通しています。一方で、両棚田の雰囲気は明らかに異なります。その要因のひとつは法面の構造の違いによるものではないかと推察します。

岩首では、棚田の法面は土や草に覆われモフモフしています(時期によってはまるっとしてかわいいです)。一方、石部では法面のほとんどは石積みでどっしりとし、岩首と比べると全体にソフトマッチョです。

また、佐渡の他の地区で棚田保全のお手伝いをした時には、人生初のヤマビルに出会い、人生を変えるようなマーズエラスな体験ができました。(おすすめ ^ ^ /)

"十棚田十色"で、それぞれの趣を味わい、特性を知ること棚田沼へと沈んでいくのだろうと思います(知る悲しみでしょうか)。そしてほうほうの棚田へ出かけたくまりました。週末には「棚田に吹く風」を読み返し、年内の旅の計画を立てようと思います。

読者のひろば



読者の声募集!

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください! ご要望、感想やご質問でもOK!
 (声800字まで、レポート4000字まで、写真も添え)
 〒160-0003 東京都新宿区西新宿7-1-181-16
 トーシンハイム704号「棚田に吹く風 読者のひろば」宛
 メールでも受け付けています ↓ hiroba@tanada.or.jp



My Best Shot!

新潟県 蒲生の棚田
 群馬県みなかみ町 篠原 豪

住まいの群馬県・みなかみから関越道で新潟県へ抜け、越後湯沢・十二峠・津南を経由して十日町市の松之山へ。そして松代への約90分の道のりは途中の集落風景を含めて私のお気に入りだ。2年に1回のペースで訪れては「まつだいの棚田マップ」を見ながら棚田を巡るのだ。



写真は「蒲生の棚田」である。秘境感、規模感が観賞していて居心地がよい。昨春訪れた際には駐車場と(棚田2枚の面を生かした?)展望スペースが整備されていた。耕作放棄地が増えていると言われて久しいが、やはりここでも……。私ができる活動を貴誌を通じて模索していきたい。

読者レポート

「棚田の今と未来を考える発表交流会」に参加して

茨城県取手市
杉山 行男

2月20日(日)13時からオンラインで開催されました。この会は、棚田LOVER、Sが加盟しているグリーン連合に提起したもので、グリーン連合主催で36名が参加しました。グリーン連合代表の藤村さんから、「グリーン連合には約70団体が参加しているが、それぞれの会の課題を勉強し、政策提言に繋げていきたい」とのあいさつがあり、古瀬事務局長の司会進行により行われました。基調講演として棚田学会の安井氏より棚田をめぐる状況や課題について、直接棚田を知らない参加者もいることから各地の棚田の写真等を使い説明がありました。次に、具体的活動事例として、棚田LOVER、Sの永宮さん、棚田ネットワーク、久留女木龍宮小僧の会鈴木氏の実際の活動報告が行われ、その後質疑と自由討論が行われました。

棚田LOVER、Sの永宮さんの報告は動画も使い、千名もの参加者があつた棚田FESや棚田塾、味噌づくり体験などのやれることなど楽しそうな活動状況を報告。私は、棚田ネットワークの活動の経緯と状況を報告しました。久留女木棚田の鈴木氏からは、NHK大河ドラマ(女城主 直虎)のロケ地となり撮影協力、棚田の根本的な問題解決に挑戦する意味で、「美味しいお米づくり研究会」1年を通じたお米づくりを学ぶ「久留女木棚田塾」を発足させ、「棚田を保全するためには、美味しいお米をつくりをめざす」との信念から土壌分析や食味分析を基に地元農家と外部耕作者が共に努力していることが報告されました。

質疑討論では、農業の問題、生き物との共生、どうしたら棚田を保全できるか、若い担い手の確保など様々な質問や意見が活発に行われ、3時間を超える充実の内容で、棚田ネットワークの会員も近況を報告するなど楽しく参加することができました。安井氏の「嫌煙活動のように最初は小さな声も続けることにより大きな高まりになった。声を上げ続けることが大事」との発言が印象的でした。



編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



酒井英次 絵画集(Ⅱ)
「50年の50点」



著者 酒井英次
2,000円(税込)

「田んぼに入る画家」である酒井英次さん。棚田を題材とする画家や写真家、俳句や短歌といった芸術に関わる人々は、たいがい田んぼに入らずに作品づくりをするが、酒井さんの絵は田んぼに入ったからこそ分かった、美術作品としての深みを感じる。2冊目の画集は「日本画を始めて50年」の自選50点。縦線の針葉樹の幹越しに棚田の風景が広がる「曾根 春耕図」、人が自然と織りなす有機的な曲線の棚田「金山さんの田んぼ」など、酒井さんの濃厚な人柄が目には浮かぶ絵ばかりである。



著者 鈴木宣弘
880円(+税)
平凡社新書
2021年7月

農業消滅
農政の失敗がまねく国家存亡の危機

貿易自由化により、国産の農産物が買い叩かれる一方、高齢化による担い手不足、耕作放棄地の増加など、農業と農村の消滅の危機が深刻度を増す。地域が豊かになるためには地域経済が観光や外需に過度に依存しないで、地域の中で回る循環構造を強化するべきと説く。棚田での小さな農業が、国家間の貿易政策や多国籍企業のビジネス戦略と密接につながっていることを実感し、農を通じた地域おこしの意味をグローバルな視点で考えさせてくれる。

棚田俳壇

令和4年

誌上添花

お花見やホームドクターめぐり会ひ
 ■ヒント
 「に」を送らないと意味が通じない
 ※解答は下記(次回募集は5月末日)

大入しろうと五七五

村人に守られ育つ鶴帰る

節分にゆるり手作り恵方巻

目で追いつき並び飛び鳥霞たつ

山茶莢の蕾ほどかむ息かけて

(写)葉の庇護も万両の実失せ形無しや

浜松市 一露

雪二尺春待つ子らの学校田

雪空に田に水張る日思いたり

南風吹いたか姿声も無

春来たれ山田訪ねん筆持ちて

新潟市 田入絵人

2022年12月26日発行



オミクロン 暖冬飛ばし厳冬に

露の蓋 苦味も嬉し春間近

故郷の新米を炊く夕べなり

プーチンも真似して世の中どん底へ

オミクロン 外食減らし海苔巻き稲荷寿司

おにぎりやおいなりさんの 日本良し

梅はまだ 福寿草見る雪の下

「必ず起き上がるから」とだるま市

調布市 高木宏明

抗うも 吹かれるがまま春一番

行き来なく2年が経ちて 春霞

雛人形飾りて沁みる 和のころ

仕事場へ足は重たし 菜種梅雨

豊島区 小川順子

雪予報 外れ童はうかぬ顔

旧正月 正座でめくる 棚田ごよみ

畦起こし 届く便りに 春を見る

(写)五人ばやし 棚田を愛でる 笛太鼓

所沢市 上久保郁夫



取手市 杉山行男

棚田ネットスタッフの つぶやき

〈輪番制〉

今回のつぶやき人 事務局 満月生まれ

祖父は竹細工の職人で農機具等、仕事道具を作っていました。

青竹を縦に細長く何等分かにして、表面の青いところだけを割いて造るのは家庭内で使う網目の違う何種類かのザルや、夏にご飯を入れるおひつ。真ん中のところと一番内側はテミ(大きな塵取りみたいなもの)、しよい籠(背中に背負える籠)等、外使いの器具になっていたと思います。

品物を編み始めるときは、冬の寒い時期でも職場(祖父の仕事場)の開き戸を開け放して庭の先まで竹が伸びていました。お尻の下には練炭を入れた堀こたつ?(何と呼ぶのか分かりませんが)で暖を取りながら吹きさらしの中を竹が短くなり短くなり、障子の貼られた戸を開められるようになるまで、日が暮れるまで竹を編んでいました。そしてよく目にしたのは棘の刺さった指を針やピンセットで抜いている姿。

丸山千枚田の中央を蛇行する道、あの工事の時もテミ等の竹細工が使われていました。丁度、プラスチック製品が出回り始めた頃です。田舎はまだまだ竹細工でした。今では考えられないことですが切り崩した土や岩をテミで移動させていました。

さて棚田です。どんな工事だったのでしょ。どんな努力と知恵が使われているのでしょ。想像すると感動としかありません。



千葉県鴨川市

川代棚田でお米づくり

2022年も心新たにお米づくり体験を実施



昨年は、新型コロナウイルス感染拡大が続く中でしたが、種蒔から田植え、草刈り、稲刈り、脱穀と全ての行事を実施、収穫祭で無事収穫できたことを笑顔で喜び合うことができました。例年に比べ参加者が少なめでしたが、すべての行事に参加し、地元の皆様のご苦労を共にすることができました。

また、簡易トイレの設置や、川代集落が棚田学会賞を受賞、成川米穀店で川代棚田米の販売など様々な動きがあった年でもありました。

川代棚田は、全部で50枚ほどの小さな棚田ですが、農林水産省の「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」にも認定、今年はオーナーも増え、庄司代表はじめ、地元の皆さんは張り切っています。私たちも地元のご指導を受けながら、「美味しい長狭米づくり」を目指しお米作り体験を実施します。

今年も、種まき（4月1日）から始まり、田植え（5月1日）、草刈り（6月5日、7月3日、8月28日）、稲刈り（9月4日）、脱穀（9月11日）、収穫祭（10月3日）と予定されています。多くの方の参加をお待ちしています。（杉山 行男）

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

棚田とビオトープの見学会



2021年度は岐阜県立国際園芸アカデミーの学生による田植えと稲刈りが出来なかったと書きましたが（結果、家族が手伝ってくれた）、七十二節気の蟋蟀在戸（きりぎりすとにあり）、秋の虫たちが鳴く頃、10月18日に学生21名が坂折棚田と棚田ビオトープの見学をしました。秋晴れではありませんでしたが、美しい棚田を見学した後、皆でお弁当を食べました。棚田を見ながら食べる食事は最高でした。

さて、春の水溜りに卵を産むヤマアカガエルの卵塊を探る「第15回かえるの卵を探そう！」は3月21日（月祝）春分の日10時から開催します。卵は時期をずらして産むので、3月21日のイベントの後、1週間間隔で2～3回、追調査に行きます。春空でウォーキングをするには良い季節なのですが、毎年、スギ花粉も多く飛んでいます。

コロナ禍ではありますが、ヤマアカガエルは毎年同じように卵を産みます。七十二節気は廻り廻る自然の営みの姿です。（相田 明）

静岡県松崎町

石部棚田で昔ながらの米づくり

2022年 石部プロジェクト始動



2月26日に田起こしを行い今年もお米作りがスタートしたのですが、私たちの耕運機の扱いが未熟で、今回1機は歯とエンジン起動部、もう1機はクラッチの破損をしてしまい、保存会に多大なるご迷惑をおかけしてしまいました！11年目に入り、気を引き締めて道具の扱いも含めて精進していきたいと思います。

3月21日、22日には畦切り＆藪口作りを少数精鋭のボランティアで行いました。昨年泥を塗った畦を平鍬で削ぎ落とし、モグラやサワガニが空けた穴を埋め、杵で叩いて畦全体をギュッと固めて強化。作業が終わった棚田に光が当たると、まるで彫刻刀で掘り起こしたような見事な風景が浮かび上がりました。2日目は、二つのうち一個の藪ぼちを解体。5つの藪口を作って作業終了。

次回4/16（土）、17（日）は、残りの藪口作りと田んぼに水を入れて攪拌する過酷な作業、代掻きを行う予定です！（高桑 智雄）



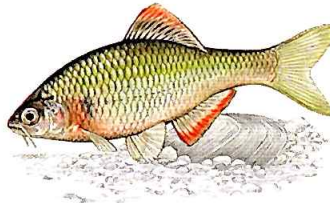
シュレーゲルアオガエル *Rhinophrynus schelgelii*

アマガエルとよく混同されるが、目の後ろに黒条がない。親のカエルは森の住人だが、繁殖期には水辺にやってくる。田植え時に、新しく盛られた畦に穴を掘り、泡に包まれた卵塊を生みつける。日本の水田と共存する身近なカエルである。

株式会社環境指標生物は、1987年の創業以来、いつの日も最前線で生きものと向き合ってきた「野生動植物のエキスパート」です。もつと身近なパートナーとして、人と生きものとの架け橋になりたい、そんな想いで日々野生動植物の調査をしています。

環境指標生物とは？

自然の豊かさを、ときにはその危機を、教えてくれる身近な生きものこと。棚田やその周りには、平地の田んぼでは見られなくなってしまったものたちがいます。



ヤリタナゴ *Tanakia lanceolata*

日本のタナゴ類としては分布が広く、北海道と南九州を除く各地にみられる。かつては田園地帯の身近な小魚であったが、圃場整備などにより数を減らした。目を見張る婚姻色の美しさ、二枚貝に産卵するという特殊な生態は、タナゴ類のお家芸である。

**株式会社
環境指標生物**

BIOINDICATOR CO.,LTD.

お問い合わせ：bio@bioindicator.co.jp



わたしたちと「棚田の応援団」やしませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか？一緒に考えませんか？ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になり!

私たちは、会報誌「棚田に吹く風(年4回)」やホームページで豊富な棚田情報を発信しています。会員になりこれらの活動に参加してみませんか？

年会費

- 個人会員
 - 維持会員 1口1万円(1口以上)
 - 一般会員 4,000円
 - 応援会員 3,000円
 - 学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちは、棚田を守るため、農山村の人々と都市住民双方の協力のもとに様々なプログラムを企画・運営しています。これらの社会貢献活動に賛同し、ご支援いただける企業・団体・事業主様を募集しています。詳細はお問い合わせ下さい。

年会費

- 法人会員(賛助会員) 1口3万円(1口以上)

2008年から始まった「ふるさと納税制度」のイメージは、偏見もたいがありませんが、どうも豪華な返礼品が目的となつてしまい、本来の自分の生まれ故郷や愛着のある土地に寄付して応援するという趣旨から少しずれてしまつていくように感じていました。棚田業界にとつても、時々「棚田米」が返礼品になつていくくらいで、特段、棚田保全とふるさと納税制度が繋がることはあまり想像出来ませんでした。今回テレビのCMなどにも頻りに「さとふる」さんも、棚田地域に直接納税できる画期的な仕組みを作ってくれたおかげで、「さとふる納税制度」のイメージが変わつたとともに新たな可能性を感じさせてもらつた機会となりました!

編集部から

ホームページのぞきを見て!

棚田ネットのWebサイトも見てみてください!



<https://www.tanada.or.jp>



2022年 春号 Vol.123

発行 認定NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp
郵便振替口座 : 00100-7-151565